

所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻 修士課程	修了年度	平成 24 年度
氏名	王 麗	指導教員	山西 正子

論文題目	現代日本語における「っていうか」の使用実態についての一考察
------	-------------------------------

### 本文概要

**【はじめに】** 日常会話でよく使用される「っていうか」に複数の談話機能を持っていることは、多数の先行研究によって既に検証された。しかし、「っていうか」の果たしている機能はそれだけなのだろうか。「っていうか」が先行研究の指摘以外にも果たしている機能があるのか、あるなら、それはどのような機能なのだろうか。また、応用面において、各機能の中でどの機能がより使用されているのか、それは異なる分野でも同じなのか、それとも、異なるのか、さらに、カジュアルな場面では、使用率の高い文型として、外国人日本語学習者は「っていうか」に対して、どのような認識を持っているのだろうか。これらの問題についてまだ十分な研究が行われていない。本論では、以上のような「っていうか」の使用実態を明らかにすることを目的に研究を行っていた。

**【研究方法】** まず、「っていうか」に関わる先行研究から「っていうか」の常用機能を「a 話題の転換」、「b 呼びかけ」、「c 前件や後件の省略」、「d 否定」、「e 躊躇」の五つにまとめた。その後、「テレビ」「雑誌、漫画」、「ブログ」、「日常会話」の四つの分野から「っていうか」の使用例を収集し、収集した用例を先行研究からまとめた五つの分類に適用し、当て嵌まらない用例を取り出して、用法及び機能について分析を行った。そして、分析した結果と以上の五つの機能を合わせ、それぞれの用例の数を統計し、使用頻度を数量化した結果で表していた。また、外国人日本語学習者の受容状況に関しては、日本の大学に通う外国人日本語学習者と外国の大学で日本語を専攻している外国人日本語学習者それぞれ 30 名を対象にアンケートを実施した。そして、アンケートの結果に基づいて日本国内にいる外国人日本語学習者と国外にいる外国人日本語学習者の「っていうか」の受容の実態と違いについて分析した。また、前文でまとめた「っていうか」の各機能の回答率を算出し、機能別の比較も行っていた。

**【結果】** 本論は以下の四つの結論を出している。

- ①「っていうか」は話し手が自分の言いたいことを総体的に述べた後にその説明となる具体的な内容を言い出すために用いられている。つまり、「説明」という機能を果たしているのである。
- ②「っていうか」の各機能の中でより多く使用されているのは「否定」と「躊躇」と「話題の転換」の順である。ただし、若い年齢層では、「話題の転換」がより使用されている傾向が今回の研究で見られた。
- ③外国人日本語学習者が最も受容している「っていうか」の機能は「躊躇」である。
- ④「っていうか」のような日常会話でよく使用される言葉は、国外の日本語学習者にとって得られにくい情報であり、同じ日本語学習者でも日本にいるかどうかによって話し言葉の受容が大きく違ってくる。

**【今後の課題】** 今後の課題としては、「っていうか」がフォーマルな会話場面でも用いられる可能性があるのかについて考察したい。それから、「っていうか」のような話し言葉についての情報をいかに国外の日本語学習者に伝えるのかを考えていきたい。もちろん、教室での授業は規範的な文法が優先されることは十分に理解しているのだが、日本人とのより高度なコミュニケーションを考えた場合では、「っていうか」のような汎用性の高い話し言葉もより整理して充分吟味した上で教えたほうが上級の日本語教育として今後では必要になってくるのではないかと考えている。